

**(福) 聖隷福祉事業団**  
**和合せいれいの里様への巡視について**  
**(令和6年3月15日実施)**

**【参加者】**

静岡労働局労働基準部健康安全課

(福) 聖隷福祉事業団

(福) 天竜厚生会

(福) 静和会

(福) 春風会

**【巡視内容】**

(1) ICT化事例について

①タブレット型の記録管理システム「HIMVIT」、②インターコミュニケーションシステム「BONX」、③見守りケアシステム「HitomeQ ケアサポート」という3種類のツールが導入されていることを確認しました。

施設の担当者様に3種類のツールの利用後の話を伺ったところ、「職員に心の余裕が生まれ、焦らず業務をすることができているため、業務の負担が低減した。」という趣旨のお話がありました。

このように、介護施設において、ICT化を進めることにより、焦り等から発生する転倒災害等の行動災害の抑止が期待できます。

①HIMVITの動作状況を確認している様子

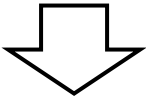


(参考) HIMVITについて：<http://products.himika.co.jp/himvit.html>



介護業務を行いながらも、タブレットに利用者の情報を簡単に入力でき、なおかつ、職員間で情報共有等ができる。

②BONXの動作状況を確認している様子

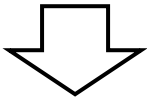


(参考) BONXについて：<https://bonx.co/ja/>



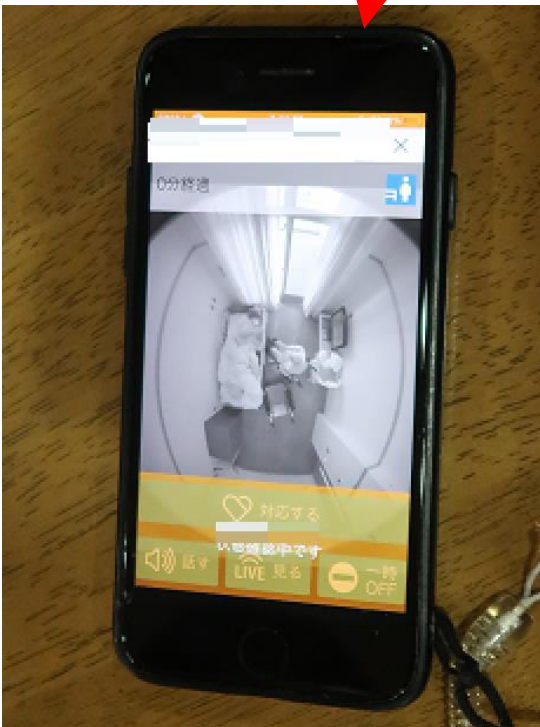
独自のスマートフォンアプリとBluetoothイヤフォンを組み合わせることによって、施設内であれば職員同士が離れた場所においても、通話することができる。  
⇒例えば経験が浅い職員が熟練の職員に通話で指示を仰ぎながら作業をすることができる。

③HitomeQ ケアサポートの動作状況を確認している様子



(参考) HitomeQ ケアサポートについて

: <https://www.konicaminolta.com/jp-ja/care-support/index.html>



天井の機械（見守りシステム）の  
映像等を職員の手持ちの  
スマートフォン等で確認できる。

## (2) 介護ロボット等について

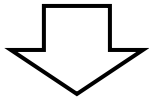
当該施設では、職員の腰痛防止対策として移乗サポートロボット「Hug」を導入していることを確認しました。

利用者をベッドから移乗させる場合は、スライディングボードとHugを併用しているとのことでした。

当該施設では、Hugを導入してから、利用者様から「ロボットによる介助は力加減等が安定しているので、安心して利用することができる」等との好評を受けているとのことでした。

また、巡視の際には、実際に巡視参加者が試乗し、Hugを使って介護補助を受けました。

Hug を使った介護補助を受けている様子



(参考) Hug について <https://www.fuji.co.jp/items/hug/hugt1>



### (3) 浴場介護関係

当該施設では、①ウルトラファインバブル発生装置の「ピュアット」②泡シャワーの「KINUAMI」という製品を導入しているとのことでした。

①について、浴槽に利用者に使ってもらい浴槽内で泡を発生させることで、洗体をすることができるものであり、濡れた状態での人による洗体行為をなくすことができ、不安全行動の抑止をすることができるものでした。

②については、泡がシャワーから出てくるため、2分間程度シャワーを浴び続け、泡を洗い流せば、洗体をすべて行うことができるもので、タオルでの泡立てやこすり洗い等の作業が軽減でき、入浴介助全体の介護量の低減につながるものと思料されました。

#### ①ピュアットの使用方法の説明を受けている様子

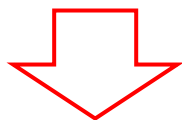
(参考) ピュアットについて：

[http://www.kinboshi-inc.co.jp/science\\_finebubble.php](http://www.kinboshi-inc.co.jp/science_finebubble.php)



②K I NUAMI の使用方法の説明を受けている様子

(参考) K I NUAMI について : <https://www.kinuami.com/>



少し時間が経つと、泡立ってきます。

